2022（令和 4）年度事業報告

コロナウイルス感染症で社会経済活動が抑制され、企業も個人の行動も大きな影響を受け続けた。当協会としても社会貢献活動や地域会・同好会活動、イベントの開催に制約がかかった。コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつあるなか、 可能な範囲で当協会の活動復活に努め社会参加機会の拡大を模索した。また､数年減り続けてきた個人会員数に対処すべく､積極的に新規会員を募集し、個人会員数減少に歯止めをかけた。

超高齢社会を迎えた現在の我が国において、高齢者に期待される役割は、心身とも健康であること、及び自立心の涵養と社会との係わりを深めることが求められている。また、引き続き平均寿命と健康寿命の差を少しでも縮め、元気に活動できる期間を伸ばすことが課題とされている。

このような背景のもと、当協会は、高齢者の社会参加活動を積極的に支援するために、チャリティコンサートをはじめ、「認知症予防活動」（きたざわサロン）等の社会貢献活動や SDG s 協働事業に取り組んできた。

以下、当期事業活動について詳述する。

Ⅰ 公益事業…高齢者の社会参加支援

1. 社会参加支援事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号事業）

① 社会貢献事業

イ. チャリティコンサート

・2022 年 6 月 4 日（土）に紀尾井ホールでウクライナ大使館後援のもと、ウクライナ緊急支援チャリティコンサートを開催し､64 人が参加した。歌・演奏はウクライナの歌姫オクサーナさん。

・2023 年 3 月 4 日（土）に紀尾井ホールで東京都善意銀行を通じて 4 福祉施設 10 人を招待して、チャリティーサロンコンサートを開催し、37 名が参加した。演奏は自閉症という障害を音楽で乗り越えた「ノブタク」2 組と、特別ゲストとしてパーカショニスト斎藤綾乃さん。

・広島支部でも引き続きエリザベト音楽大学との共催で留学生支援のためのチャリティコンサートを開催し 80 人が参加した。

ロ. 施設入居者作品の販売協力

2022 年 11 月 9 日（水）開催の「第 21 回はつらつふれあいの集い」において、虹の子会の販売協力を行った。

ハ. 寄付

関東：緊急支援チャリティコンサート当日の募金も含め 20 万円をウクライナ大使館に寄付した。チャリティーサロンコンサートでは、4 福祉施設に対し 6 万円相当の招待寄付を行った。

広島：例年同様留学生支援（留学生奨学金基金）のため、10 万円を公益財団法人広島平和文化センターに寄付した。

ニ. SDGｓ協働事業

・8 月に「下水道展‘22 東京（東京ビッグサイト）」に出展し、協会の環境保護活動をＰＲした。

・2022 年 10 月 19 日（水）に西東京市東小学校で施設開放運営協議会主催の放課後子供教室で、竹とんぼ教室を開催し、40 人が参加した。

・玉川高島屋ＳＣでは、2022 年 5 月 3 日に「楽しい手作りおもちゃでＳＤＧｓ」、2023 年 1 月 28 日に「動くおもちゃシリーズ」教室を開催し、合計で 35 人が参加した。

ホ. 留学生との交流（広島）

コロナの影響で卓球大会等のミニ交流会は中止し、10 月 15 日に交流会（詩吟同好会の合吟と、留学生による演奏会）を開催し 54 人が参加した。

ヘ. ボランティア活動（広島）

・11 月 20 日に開催された「国際フェスタ」に 44 人がボランティア参加。

・スペシャルオリンピックス（4 月・11 月）に 60 人がボランティア参加。

ト. 認知症予防事業

世田谷区下北沢で、平成 22 年 6 月以来毎月 1 回認知症予防事業「きたざわサロン」を開催していたが、新型コロナウイルス感染のため 2 年半休止した。今年度 6 月から再開し 8 月を除き毎月実施し各回平均 12 名が参加した。

② 生活情報提供事業

イ. 「私の大切な覚書き」（エンディングノート）

万が一に備え、残された親族等に対し、本人の考え方や希望などを整理し、記録しておくための廉価でコンパクトなエンディングノート「私の大切な覚書き」を作成している。13 年目の本年度は大口頒布先がコロナの影響で在庫があって購入しなかったことから、累計は 39 万部に留まった。

③ イベント事業ほか

イ. イベント事業

幅広いイベントの実施は高齢者の「社会参加と生きがい」「自立と助け合い」につながる重要な行事である。各イベントは運営委員の努力と参加会員・一般参加者の協力により，コロナ感染の合間を縫って実施した。2022 年度は関東 17、広島 28 の地域会・同好会でイベント（別紙参照）を実施し、延参加人数は、前年度を 3000 名弱上回る約 6400 名となった。

ロ. 地域会活動

関東地区は活動地域が広域なため、神奈川県（神奈川会）、埼玉県（埼玉会）、東京多摩地区（西東京会）、東京 23 区及び千葉県（京葉会）の 4 地域に分け、それぞれ地域会を置いて地域に密着したイベント活動を行っている。

ハ. 広島支部の主な活動

二木会：毎月開催し年間延出席者数 933 名、世話人交流会年間延出席者数

111 名、同好会活動年間延出席者数 5409 名
今年度は、日退協広島支部創設 30 周年の各種記念事業を行うとともに、記念誌「30 年の歩み」を発刊した。

2. 対外事業（定款第 4 条第 1 項第 2 号事業）

当協会が会員となっている高齢社会 NGO 連絡協議会から紹介された各種セミナー・講演会に参加するとともに、介護問題などに取り組んでいる各種団体と協議を行った。

3. 研修・講座事業（定款第 4 条第 1 項第 3 号事業）

ふれあいトークサロン
2022 年 11 月 28 日　「江戸城天守再建」過去・現在・未来　太田資暁氏
参加人数は 35 名

4. 広報事業（定款第 4 条第 1 項第 4 号事業）

イ. 機関誌「マチュリティ」
外部関連団体、法人・個人会員向けに 7 月と 1 月の年 2 回発行。
社会に求められる社会貢献活動やＳＤＧｓ協働事業の取組みの状況と成果、時宜にかなった特集記事、ふれあいトークサロンの講話、談話室、ひとこと、イベントだより、各地域会だより等、協会と会員の活動に関する記事を掲載し、外部への広報と会員相互間の啓発および交流をはかった。

ロ. ホームページ
協会の概要、事業報告等の情報公開、イベント活動報告、機関誌「マチュリティ」の内容などを掲載している。また、入会申込や「私の大切な覚え書き」注文のほかイベント申込がホームページからも来るようにしている。

Ⅱ 収益事業

1. コンサルティング事業（定款第 4 条第 1 項第 6 号事業）

勤労者向け福祉活動の一環として企画された「福利厚生施設のアウトソーシング」事業に協力、企業の採用にともない仲介手数料収入を得ている。

Ⅲ その他事業

1. ニュース発行事業（定款第 4 条第 1 項第 6 号事業）

法人・個人会員（非会員を含む）むけにイベント案内などを行う。
発行頻度は関東年 6 回（偶数月）、広島年 6 回（奇数月）となっている。文書による案内をメール配信もしくは郵送するほか、ホームページにも掲載して広くイベントへの参加を呼び掛けている。

2. 親睦事業（定款第 4 条第 1 項第 5 号事業）

イ. 「はつらつふれあいの集い」個人会員親睦会

2022年11月9日、神保町のNLPジャパンラーニングセンターで開催し、60名が参加した。各活動のパネル展示やアトラクション・抽選会などで盛り上がった。

ロ．広島支部では、納涼会、新年懇親会（93人参加）、新入会員の集い（9月と３月で合計58人参加）を開催した。

Ⅳ 当面の課題…運営基盤の強化

1. 法人会員

2022年度は退会が1社、入会が2社あったため年度末現在の会員数は26社となっている。引続き会員の獲得に取組む。また現会員への連絡・報告を密にし、一層の支援を得るよう努める。

2. 個人会員

コロナによる行動制限や高齢化に伴う退会者が多く、数年にわたり正会員数の減少が続いたが、協会活動の活性化のために会員獲得につとめた結果、正会員数は年間24名増加した。年度末現在の会員数は次のとおりである。一般高齢者にも協会の活動を広くPRし、なお一層の会員増を目指す必要がある。

関東地区　　596名（うち正会員　384名、家族会員212名）
広島地区　　541名（うち正会員　390名、家族会員151名）
合計　　1,137名（うち正会員　774名、家族会員363名）

3. 財政基盤の強化

新型コロナウイルスの影響が続き、当協会を取り巻く経済環境も厳しさを増した。収入の柱である「私の大切な覚書」も頒布先金融機関などからの受注が停止している。

今後、SDGｓ活動とフレイル防止活動を中心として法人会員・個人会員の会員拡大に努めるとともに幅広く外部からも寄付が募れるよう取り組んでいく。

また、コンサルティング事業及び「私の大切な覚書き」の頒布や新規事業の開発に引続き積極的に取り組む一方、事務処理の改革など効率的に業務運営を行う。

以上